

ベトナム ベンチェ省での活動を終えて

長崎大学歯学部4年

中村 和貴

活動1日目

前日の深夜にベンチェ省のゲストハウスに到着しました。翌日の朝に美味しいご飯を頂き、自己紹介を兼ねたミーティングをしました。先生方や看護師さん、通訳さんたちの意気込みを肌で感じ、学生の私が少しでも力になれるようにと心に刻みました。私は中央機材とオペレーション室2（愛知学院大学）で手伝わせてもらうことになりました。現地では立派な手術室があり、そこに多くの機材を運び込みました。

そして午後から別病棟に向かうと本当に多くの患者さんご家族が待っておられました。患者さんたちを先生たちの診断、血液検査、印象、会計という流れで診察し、およそ130人の患者さんのうち、半数の患者さんが手術適応となりました。私はそこで森田幸子先生（長崎大学 歯科矯正学分野）のもと、印象を採ることと患者さんたちの診察を円滑にするメッセージの役割をしました。私も口蓋裂の患者の印象をとらせてもらいましたが、患者さんをじっとさせることや、言葉を患者さんやご両親に伝えることが難しかったです。

ベトナムの都市部では口唇口蓋裂を理由に中絶を選択する人が多くなってしまっていますが、ベンチェ省では日本口唇口蓋裂協会の長年の活動のおかげで、ほとんどいなくなっていることを夏目先生がご説明して下さい、感銘を受けました。私は口唇裂や口蓋裂を理由に中絶で生まれてくることのできない子供を一人でも多く救いたいと思いました。



活動2日目

この日は患者さんのお宅に伺わせてもらいました。私たちが到着すると患者さんご家族が暖かくもてなしてくれました。その時私たちが作ったバルーンアートを配ると子どもたちが喜んでくれて嬉しかったです。幼い子供を連れてご両親がご自宅から病院までの長距離の移動の大変さを感じました。



活動3日目

朝五時起床で朝食後すぐ病院に行き、患者さんたちの検温をしました。夏目先生の口唇裂の手術を見学させて頂きました。この患者さんは日本口唇口蓋裂協会の活動がなければ中絶されていたと思われます。病院側がこのベンチェ省でのプログラムがあることを理由に中絶を考えていた両親を思いとどまらせてくれました。この患者さんやご両親をモデルケースとしてさらに多くの中絶されうる子供を救いたいという先生のお考えに、私は心打たれました。口唇口蓋裂の患者は優しく家族思いであることを広く知ってもらい、また脳プログラムもやっていて口蓋裂の患者に単に言語訓練をするのではなく、計算をさせたりすることでIQを高めるという活動にも感動しました。先生は手術が終わると患者のご両親に「口蓋裂の子は優しい子が多く親孝行者になります。少し傷が残るかもしれないけどそれが人としての深みを増します。将来医者になってぜひ連絡下さい」と名刺を手渡される様子に、手術だけでなく、術後に患者さんを気遣うことがいかに大切であるかを感じました。術後の対話は患者さんとそのご家族の人生までを変えるほどの力強さを伴っているのではないかと思います。



活動4日目から7日目

この日も朝六時朝食を頂き、病院に向かい患者さんの検温から1日が始まりました。森田

先生や現地の技工士さんとともにプレートを製作し、患者さんに適合するかをチェックしたり、歯科衛生士さんが手術前に行う口腔ケアを手伝いました。適合チェックするだけでも患者さんたちは怖がり、さらに幼い子は泣いてしまいます。通訳さんの力も借りて「大丈夫、痛くない」をベトナム語で伝え、目でも訴えることで、患者さんたちは安心して口を開けてくれるようになりました。

また前日と同様に手術着を着て新美先生や井村先生の手術を見学させてもらいました。手術室に入室することさえ初めてだった私に先生たちは様々なことに挑戦させて下さいました。口唇口蓋裂の手術を目の前で見学させて頂き、とても感動して将来私も口腔外科医になって口唇口蓋裂に苦しむ方々を助けたいと強く思いました。夕食後も先生たちが回診に連れて行って下さり、子供たちやそのご両親の笑顔に私はとても心打たれました。



活動8日目

午前中は手術室の片付けをして機材をダンボールに詰める作業をしました。もうこれで終わってしまうという寂しさと達成感がありました。午後、その日も先生たちは自分の担当の患者さんを診察されました。診察の際患者さんにご両親たちの笑顔に私も将来自分の手で手術して患者さんたちを笑顔にしたいと強く感じました。

今回のベトナムミッションに学生として参加させてもらえて本当に有り難いことだと思っております。学生でも出来ることは多分にあることが分かり、大変勉強になりました。これからも日本口唇口蓋裂協会の活動に参加させてもらえる機会があればまたぜひ参加したいです。将来自分が実際に執刀し、口唇口蓋裂を理由に中絶されてしまう子供を一人でも減らすことが今の私の夢になりました。

本当にありがとうございました。